



今年は島根も雪が積もり、どの園もたくさん雪遊びを楽しむ事ができました。コロナ禍は集まって学習をする機会が減っていましたが、その間若い職員も増えてきました。そのため今年度は改めて講師の先生を招いて学習をしていこうと取り組みました。



深野静子氏研修会 2024年9月28日(土)～29日

2024年度の職員学習会として深野静子さんを招いての研修会をしました。9月28日(土)は松江市宍道の宍道高校体育館でリズム研修をしました。最初に参加者の歌でスタート。その後経験年数で分けた4つのグループで、午前は「土台のリズム」、午後は「年長のリズムと集団遊び」をしました。途中で「さくらさくらんぼのリズムのめざすもの」について話してもらいながらのリズムでした。深野さんが笑顔で軽やかにリズムをされる様子に誘われて、参加者も楽しく、しっかり動くことができました。



29日(日)は「さくらさくらんぼ保育の源流について～『あすを拓く子ら』『錦を織るしごと』から」と題しての講演でした。斎藤先生から学んでこられたこの保育のめざすものについて、深野さんの実践を通して話してもらいました。目の前の子どもをどう育てていくかが大切、わからない事は聞いて、悩んだら本を読んで、本質を理解する事、自分自身も日々どう生きるか振り返りつつ過ごしていると話してもらいました。今回の研修に両日で189人、そのうち姉妹園以外からも3園(27人)の参加がありました。



宮城7か園交流合宿に参加して 10月 ～ 川登保育園 ～

川登保育園は2024年10月、宮城交流合宿に川登年長児(全7名)を連れて参加しました。二十数年前にも錦保育園に年長連で行ったことがありましたが、今回久々に参加して あまりにも大きな収穫を子どもも大人も得ましたので、ここに報告いたします。

行程は、10月15日(火)島根出発、昼すぎ くるみの木保育園着。帰りは20日(日)昼まえ宮城発、夕方島根着の5泊6日。19日(木)～21日(土)の宮城7か園交流合宿に合わせた参加でした。当地を訪問されたことのある方々の知るとおり、子どもの発達を最大限に生かそうと考慮された園舎設計、斜面・若木を生かしたリズムができる園庭、周辺の広大な360度どの方向にも散歩できる自然環境、飛来し飛び立つ雁の群れ(島根の私たちには、雁の群れはとても大きな驚き・喜びでした)。一村さん主導で展開されるリズムは、心地よい緊張感のある楽しいものでした。

「夕日」のリズムの徹底ぶり、二人組のスキップ&ギャロップ等の速い動きがあったりの中で、大人たちの介助のすばやい動きが、印象的でした。子どもの細かい変化は屋内リズムで見えていき、大きな動き・自然への対応力などの育ちは屋外リズムを多用して見ていくことも、大きな学びでした。年長児の雑巾がけの量の多さについても考えさせられました。

夜には、保護者主体の学習委員会や、学童運営委員会の集まりや、交流合宿期間中の振り返り会に参加でき、東北の地に このように保育者と親たちが 一村さんを中心にして学習をし話し合いをし、活動と一緒にしながら 乳幼児・学童の育ちを大事に生み出してきた実践の歴史があることを目の当たりにし感動しました。最終日の夜は、錦保育園・くるみの木保育園の4家庭に受け入れてもらい川登の年長児は1~2名ずつ子どもだけで泊まりました。民泊に出かけるときは不安げな子もいましたが、翌朝 どの子も皆「楽しかったあ」と言って帰ってきて、その全員の表情を見て大安心、子どもたちにとって大きな意義ある体験になったことが感じられました。一村さん始め、くるみの木の職員・親さんにも、民泊の受け入れをしてくださった親さんにも、感謝です。年長たちにとって、民泊も宮城での体験の数々もかけがえのない体験になったことと思います。「川登に来てもらえて有難かった」と職員さん親さんに言ってもらい、そのように言える宮城の大人集団に感激しました。

川登の親さんの1人が民宿させて頂いたお礼の手紙に「子育てをしている中でこんなに嬉しいことがプレゼントされるのですね」と感動の言葉を綴っておられました。

今回宮城の交流合宿に参加して、子ども達にとっては、かけがえのない体験、そして沢山の学びがありました。島根に帰りは是非仲間達に伝えていきたいと思います。

文責：川登保育園 山口 真



広木先生 子育て講演会 12月22日

島根では5年ぶりに、広木克行先生の子育て講演会を出雲市の「ビッグハートいずも」で開催しました。島根に寒波が襲来した12月22日(日)、荒天で大変寒い中、先生に前日より来県していただきました。久しぶりにお会いした先生から、「島根は寒いと聞いて、しっかり着込んできましたよ。」と明るい笑顔で言っただき、大変うれしい思いでお迎えしました。

この5年間にコロナ禍を経験し、それが子ども達にどれだけの影響を与えてきたか、コロナ禍前の2019年とコロナ禍後の2023年の不登校数といじめの件数、また小学校内での暴力、暴れる子の増加の現状を聞いて、改めてその問題の深さを思い知らされました。どんな状況でも、子どもの発達の道筋には法則がある事、先読みしていろんなことをさせるのではなく、今を充実させる事。今、加速主義が蔓延し、「なんでも早ければいい」という風潮があり、子ども達にもこの流れが入り込んでいる現状も具体的に話してもらいました。そして、「つ」のつく9歳までは五感をしっかり使い、「食っちゃ寝」の生活と遊びを保障する事。今小学生から英語教育が入り込んでいるが、幼児期に言語体験を充分にする事の大切さも話してもらいました。そして今こそ「さくら・さくらんぼ」に学ぶ私たちの保育が、子ども達を発達の道筋に沿って育てる保育だと後押しをしてもらいました。また、質疑応答では、学童保育の担当者から、学童保育内での暴言や、荒れている子ども達の現状やその対応について悩んでいる報告がありました。

今回は、保育者中心の講演会で、姉妹園以外からも含め276人の参加でしたが、参加した保育者から、「この講演を保護者にも聞いてもらいたい。」という声が多くあり、来年度は保護者にも参加してもらおう形で開催しようと話し合いました。

私は高校の教員をしているので日ごろから接している高校生の姿も頭に浮かべながら聞きました。高校生になっても困難を抱えている子どもを見て、色々と思う所がありました。今からでも育ち直しができるのかとも思えたので生徒と向き合っていきたいです。高校生で多いのが「将来やりたいことがない」「好きなことが見つからない」です。これにも育ちのステップが関係しているのかなと思いました。あとは、やはり忙しすぎますね。大人が。子どもたちと向き合う時間がない。特に母親との時間がない子どもが増えていて「愛されたい」「見てほしい」子どもの言語化できない思いが行動化しています。勉強になりました。

触覚が五感の中で一番大切という事を知り、子どもにしっかりと肌と肌で触れる事は自分にもできることだなと感じました。

「今を生きる」ことが大切だとわかりました。先の事を考えて子どものためを思っていることもとても大切だけど、子どもが“今”何がしたいのか。大人の思いだけでなく1番に子どもの事を考えた行動をしたいなと思いました。